

2015・12/5(sat)

開始 pm:1300~17:00(受付 12:30~13:00)

会場 大阪成蹊大学・短期大学 401教室

<http://tandai.osaka-seikei.ac.jp/index.html>

〒533-0007 大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10-62 (阪急相川駅徒歩5分)

問い合わせ：06-68292573 無料 教育第一研究室 事前申し込みは不要です。

【Symposium 発題者紹介】

■平田 聡 (熊本サントクチュアリ所長, 京都大学野生動物研究センター教授)

発題「類人猿を通してヒトを知る—心の進化と生物学的基盤」

日本霊長類学会高島賞 (2009年) 日本心理学会国際賞 (2010年) 日本学術振興会賞 (2012年)

日本学士院学術奨励賞 (2012年)

平田先生は「人間とは何か」、人間の知性とどのようにして獲得できるのかをヒト以外の霊長類を比較認知科学的視点から研究することで解明しようとしている。さらにチンパンジーの社会的知性の研究を通じて、心の進化に迫りたいと考えている。

■町山 太郎 先生 (まどか幼稚園 園長)

発題「乳幼児の表現活動と身体発達との関連について」

町山先生は若くして幼稚園の園長で、関東中心に多くのワークショップや講演を通じて幼児の身体バランスの大切さを研究、実践している。2015年の幼児造形研究大会では「身体性と造形性」として身体を動かす造形遊びの連続性についてワークショップを試した。日本発育発達心理学会では「幼児の運動能力と園での好きな遊びの時間に見られる基本的動作との関連」を発表。乳幼児期の子どもたちと親の絆を発達の観点から研究している。

■栗山 誠 (大阪総合保育大学 教授)

発題「描画過程のリアリティ~叙事的表現に注目して」

栗山先生は研究論文「幼児の”描きながらイメージを広げる”描画の研究 ~描画手順と意味の変化~」で描けない子どもではなく描ける子どもに注目し、「白らが描いた記号に反応しながら描く子どもの様子を研究している。また「前図式期から図式期における幼児の形態概念模索の過程：遊びの中の描画活動に注目して」など実践を通じて子どもの造形に関する発達を研究している。

Opening remarks 花篤 實 (美術科教育学会元代表理事・大阪教育大学名誉教授)

Coordinator 塩見 知利 (大阪成蹊短期大学教授 乳・幼児造形研究部会長)

第38回美術科教育学会大阪大会 プレ学会 in 大阪成蹊大学・短期大学

表現の地平

—表現活動の原点から創造する身体へ—

第38回美術科教育学会のテーマは「表現、その旅のはじまり」です。今回のプレ学会はその趣旨に沿った形でテーマを「表現の地平線、—表現活動の原点から創造する身体へ—」として3名の研究者にお越しいただきます。平田先生は京都大学野生動物研究センター教授で「人の心はどのようにして進化してきたのか」をチンパンジーの行動から導き出そうとしておられる世界的な研究者です。町山先生は、若くして幼稚園の副園長として自園をフィールドに幼児の造形する身体を発達との関連において研究をされています。栗山先生は大阪総合保育大学教授であり、描画活動の発達を主題に研究者されています。子どもたちはなぜ喜んで絵を描くのかをテーマにした研究者です。各々の研究はいずれも人間の創造・創作活動における根源的な課題が内包されている興味深い研究です。こうした研究は同時に、乳幼児から始まる美術教育の方向性を示唆するものだと言えるでしょう。

The Association of Art Education

主催：美術科教育学会 共催 乳・幼児造形研究部会